いづれの御時にか、女御・更衣あまた侍ひ給ひける中に、
いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふ、
ありけり。

初めより我はと思ひ上がり給へる御方々、めざましき者
におとしめそねみ給ふ。同じほど、それより下臈の更衣た
ちは、まして安からず、朝夕の宮仕へにつけても、人の心
をのみ動かし、恨みを負ふつもりにやありけむ、いとあつ
しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよ飽か
ずあはれなるものにおぼほして、人のそしりをもえ憚らせ
給はず、世の例にもなりぬべき御もてなしなり。上達部・
上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の
御おぼえなり。